水俣病認定業務を促進するため、申請者の各会派、環境庁及び県の三者の話合い等を続け、一日も早く認定業務を軌道に乗せるよう鋭意努力します。

水俣病の申請者で、申請後一年以上を経過し、指定地域等に五年以上居住しておられる方々に対し、今回救済措置により医療費の助成を行います。

水俣湾等堆積汚泥処理事業については技術検討委員会に処理工法及び監視計画などの検討をお願いし、早期着工を図ります。

また浚渫試験、魚介類の汚染対策、実施設計調査、漁業補償交渉を実施するため必要な経費として二億八千百万円を計上しました。

福祉生活衛生関係

身体障害者、老人、生活保護及び児童関係の扶助費として百七十二億四千百万円を計上。

母子更生資金、母子・寡婦の福祉資金の貸付。また母子世帯向けの公営住宅を今年は新たに建設いたします。

青少年対策の一つとして、九州各県と共同して「九州青年の船」を中国に派遣します。

次に衛生部関係としては、救急医療体制の確立を図るため日赤熊本病院の改築費の助成二億五千万円。昭和五十年十一月開院予定の県立病院の改築費四億八百万円を計上。

そのほか、母子保健対策、結核医療対策、精神衛生対策及び特定疾患治療研究費について、医療扶助費六十四億二千二百万円を計上しております。

農林水産関係

阿蘇火山の異常活動による災害対策として、防災観測点の設置及び酸度矯正事業費等五千八百万円を計上。

農業金融対策は、農業近代化資金の融資枠を暫定的に四十億円。農業振興資金二十五億をとりあえず計上。

畜産経営の安定を図るため緊急対策として五千三百万円を計上しました。

このほか、第二次構造改善事業、農業就業改善事業あるいは農村総合整備対策事業については、継続事業を中心に所要経費を計上。

また土地改良事業は特に防災ダム及び日中海底ケーブル開発関連の広域農道の建設工事県営ほ場整備事業は水稲作付けに支障のないよう春工事を重点に予算措置をしました。

次に林業対策は、治山、造林、林道整備事業等の公共事業や森林病虫の駆除の徹底を図ります。なお林業後継者を対象に、近代的林業技術の訓練教育を行う林業技術実習施設を建設します。

水産関係は、漁業金融並びに沿岸漁業構造改善及び漁港整備事業や密漁取締体制の強化のため快速艇を一隻増加配備します。

土木関係

公共事業は、雨期前に施行する必要のあるもの並びに継続事業を中心に百二十九億四千百万円、単独事業は、緊急に施行する必要のあるものに限って七億六千百万円計上しました。住宅建設は早期着工をはかるため当初予算に全額計上し、三百四十二戸と白川改修関連事業として改良住宅三十五戸を建設します。

また防災対策は、水防テレメーターの整備を年次計画で実施します。

なお、阿蘇火山防災対策として「活動火山周辺地域における避難施設等の整備等に関する法律」に基づき関係町が実施する避難施設及び警報機の設置事業に助成します。

教育・警察関係

熊本西高等学校と氷川高等学校の開校や学級増設により今春の高校進学率は九一・五%前後まで向上します。なお、特殊学校において、心身障害児童生徒を対象とした重複障害学級を熊本養護学校等において三学級増設します。

また、教職員の研修旅費の増額と県立学校運営費の増額を図ります。

そのほか、義務教育諸学校の学校給食用果実の給食補助、へき地等の学校給食用牛乳の輸送補助を行います。

熊本西高等学校及び矢部高等学校の新改築費四億九千万円を計上。

警察関係では、警察官五十名の増員と御船警察署の改築をいたします。

企面開発関係

土地利用対策として、土地利用基本計画の修正及び五百七十九地点の基準地の地価調査等の経費として四千百万円を計上。

なお、有料道路の建設事業として、南阿蘇登山有料道路十七億円、天草下島横断有料道路三億円の事業費を企業会計予算において計上しました。

その他

美術館建設は、本年度開館を目標に建設費三億七千二百万円を計上。

また、玉名総合庁舎の建設の最終年度工事分を計上しました。

この人と30分

このコーナーは県出身者で各界のトップとして活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

〝自ら働き 自らを立てる〟

今村幾太

横浜市竹之丸の港に背を向けた小高い丘を登りつめるとそこに私立盲学校、横浜訓盲学院がある。

同学院の理事長で、大正八年から、経営に当たっている今村幾太さんを訪れ事務棟の二階の質素な院長室でお会いした。

物静かな口調で〝自ら働き、自ら立ててゆく、自立精神に富んだ子を育てる〟をモットーにしているなど特殊学校経営の苦心を語っくれた。また今村さんは野球が好きで戦後学院チームを編成、投手として投げ続けている。昨年連続二百勝の快記録を達成、その記念に神奈川県知事から贈られた楯を示しながら記録について語る今村さんは、八十五歳とは思えない若々しさだ。

芦北郡佐敷町出身明治二十二年生れ

現在横浜訓盲学院理事長、横浜訓盲院院長昭和三十年藍綬褒章、三十七年神奈川文化賞、四十年勲四等瑞宝章

現住所　横浜市中区竹之丸一八一

キリスト教との出会い

佐敷に生れ、二十歳頃までそこにいました。それから朝鮮郵船会社の創立者に吉田秀二郎という人がいましてね。この人を頼って元山に行き、造船・新聞・鉄鉱などいろんな仕事につかってもらいました。そうですね、七年位お世話になりましたか、その仕事にも飽きがきましてね、東京に出てきたわけです。大正の初め頃です。

その頃は就職のことは頭になかったですね。修養一本だったですよ。勉学ということではなく精神修養だったです。その間に薦める人がありましてね、日本におけるキリスト教の基礎を固めた先覚者の植村牧師にお会いしたんです。説教を聞いて非常に感銘を受けましてね、それから毎週、日曜には欠かさず説教を聞きにいき、そして洗礼をうけました。

本当に私の青年末期からの人生は植村牧師との出会いによって決まりましたね。

私は凝り性

東京でキリスト教の修道に励んでいたわけすが、当時日本に書道の大家の米庵の孫弟子に当たる本田退庵という人が東京にいましてね、私、元来凝り性ですからね、宗教の時も植村牧師にすっかり心酔したわけですが、書道にもね凝りまし